

七月七日

工部省へ達 六年七月七日

女工場開業ニ付先般伺出候諭告ノ儀ハ去月二十八日
及指令候其省布達ニ相添別紙ノ通勸工寮ノ名ヲ以テ
布達可致候事也

工部省伺 六年六月十三日

去ル四月十五日御届申進置候通莫大小女教師來着
ニ付溜池葵町勸工寮構内ニ於テ假ニ女工場相設傳
習爲致度就テハ別紙ノ通常省ヨリ一般へ布達來ル
七月一日ヨリ開業致度依テ布達按並略則相添此段

相伺候也 六月十三日 布達按
指令 六月十八日 後ニ出ス
伺之通 六月廿八日

但別紙ノ通布達可致事

付箋

庶務課議按

六年六月三十日

工部省上申女工場開業、儀ハ伺、通り御許容相成
 別紙同省ヨリ右趣旨巨細諭達、儀ハ改竄省畧、文言
 ニテ布達可致旨御達相成候處右巨細諭達、趣旨モ
 一應ハ為心得置候方可然哉ニ付テハ別紙ノ通り刑
 正致シ勸工寮、名ニテ諭告為致候テ相當ニ可有之
 ト存候依之別紙並御達按取調相伺候也

工部省届 六年七月十七日

○別紙ハ長ニ削除セル諭告ラ更ニ刪正シテ淨寫シタル
 モノナリ即チ前ニ載セタル夫人ノ世ニ履スル云々ノ諭達文ナリ

當省勸工寮ニ於テ女工場相開候ニ付テハ右略則兼
 テ同濟ノ通各府縣ハ及布達候間別冊十部相添此段
 御届申候也 七月十七日

勸工寮

別紙

今般赤坂溜池葵町勸工寮構内ニ於テ假ニ女工場ヲ
 設ケ外國教師ヲ置キ襟袿、粧飾及組織縫箔、技藝
 ニ至ル迄左ノ規則ヲ以テ婦女子ノ為ニ教授為致候
 間志願ノ者ハ同寮ハ出頭修業可致候事 六年七月

女工場略則

一 毎日午前第九時半入場同十二時退場午後第一時
 半入場同四時退場ノ事

但終日修業ノ者往返道路、都合ニ依リ辨當ヲ
 携ヘ來ルモ亦妨ナシ

一 日曜日ヲ以テ休暇トス
 但日曜日前日ハ午後傳習相休候事

一 終日修業ノ者ハ傳習料トシテ一ヶ月金三圓五十
 錢半日修業ノ者ハ金貳圓ヲ納ムヘシ

女工場

法制課議案

六年六月二十三日

別紙工部省上申女工場開業之儀ハ方今缺ク可カラサル
要務ニモ有之且ハ学校生徒之趣意ニ無之固ヨリ勸工寮ニ
屬ス可キ儀ニ付伺之趣掛紙之通相改施行相成可然存候
因テ御指令案調査供高覽候也

之ヲ淨寫シタルモノナリ即チ
前ニ載セタル女工場略則文ナリ

工部省届 六年七月十七日

○別紙ハ舊案ニ別添セタル論告ヲ更ニ修正シテ淨寫シタル
モノナリ即チ前ニ載セタル夫人ノ世ニ廢スル云々ノ論達文ナリ

當者勸工寮ニ於テ女工場相關候ニ付テハ右略則兼
テ伺濟ノ通各府縣へ及布達候間別冊十部相添此段
御届申候也 七月十七日

勸工寮

別紙

今般赤坂溜池茶町勸工寮構内ニ於テ假ニ女工場ヲ
設ケ外國教師ヲ置キ襟袖、粧飾及組織縫着、技藝
ニ至ル迄左ノ規則ヲ以テ婦女子ノ爲ニ教授爲致候
間志願ノ者ハ同寮へ出頭修業可致候事 六年七月

女工場略則

一 毎日午前第九時半入場同十二時退場午後第一時
半入場同四時退場ノ事

但終日修業ノ者往返道路、都合ニ依リ辨當ノ
携へ來ルモ亦妨ナシ

一日曜日ヲ以テ休暇トス

但日曜日前日ハ午後傳習相休候事

一 終日修業ノ者ハ傳習料トシテ一ヶ月金ニ圓五十
錢半日修業ノ者ハ金貳圓ヲ納ムヘシ

大文頭

但平日修業ノ者ハ最初入場ノ節午前午後ノ別ヲ
立出頭致スヘキ事

一其修業ニ要用ナル針糸及ヒ布帛ノ類ハ悉皆自費
タルヘシ

一自家所用ノ衣服等裁縫ノ傳習ヲ要スル者ハ其布
帛ヲ齎ラシ來リ場中ニ於テ裁縫不苦候事

一場中着服ハ常用タルヘシト雖トモ沓麻裏雪駄ノ
外無用ノ事

但足袋ハ必ス用ユヘシ

夫人世ニ處スル男女貴賤ヲ論セス少壯ノ時勉メ學
ヒテ能其業ヲ脩メサレハ後必嚙臍ノ悔アルコト誰
カ之レヲ知ラサラン苟モ之レヲ知ラハ父兄タル者
其少年ヲシテ須ラク學ニ就カシムヘク年ヤ長セ

ル者ニ於テハ殊ニ宜ク自ラ顧ミ自ラ誠メテ徒ラニ
光陰ヲ費ヤスヘカラサルコト也今ヤ文明進步ノ時
ニ中リ百般ノ事業歲月ヲ逐テ沿革シ飲食衣服居室
ノ制漸ク其風ヲ更ムルニ至レリ隨テ組織裁縫ヲ始
メ諸ノ如工徒時ニ同シカラサルモノ許多ナレハ女
子ニ於テモ亦其工藝ヲ忽ニセス將ニ之ヲ勉ムヘキ
ナリ凡婦女子タルモノ能ク其藝ヲ精ウシ其功ヲ巧
ミニスレハ婚嫁ノ後一家ノ需用乏シカラサルノミ
ナラス己カカラ以テ夫ノ家産ヲ資ケ共ニ富有ノ身
トモナルヘク縱令不幸ニシテ夫婿ニ別レ便リラ夫
フコトアリト雖モ強クニ他人ノ救助ヲ乞ハス獨リ
自ラ其業ヲ以テ恒産ヲ立テ口ヲ糊スルニ足レリ仰
テハ父母ニ供養シ俯シテハ子孫ヲ愛育シ啻ニ婦女

人子ノ聲價ヲ墜サレノミナラス亦以テ國家ノ洪
益ヲモ致スヘシ雖然凡ソ人學ハスシテ其道ヲ知ラ
サルハ猶玉ノ磨カスシテ光ナキカ如クナレハ其初
教導ニヨラスシテハ終ニ其志ヲ遂ケ其業ヲ脩ムル
事ヲ得ヘカラス故ニ近來女學校ノ設アリテ少女ヲ
シテコレニ從事セシムトイヘル補成年ノ者ニ至ツ
テハ少女ト同シク其校ニ入り其業ヲ共ニスヘキニ
アラス依之更ニ今般本寮ニ於テ外國女教師三名ヲ
傭ニ女工場ヲ開キ己ニ成年ヲ過ル女子ト雖トモ入
場ヲ許シ各様ノ工藝ヲ教授セシム有志ノ輩來テ業
ヲ受クヘキモノ也

〔六〕

十五

女工場略則第三條改正

工部省布達府縣

辨^十年七月中第一號ヲ以テ及布達候女工場略則第三
條左ノ通改正候條此旨更ニ布達候事 九月十二日
一終日修業ノ者ハ傳習料トシテ一ヶ月金一圓五十
錢半日修業ノ者ハ金七十五錢ヲ納ムヘシ

十五

女
工
場
略
則
第
三
條
改
正